

県士会 ニュース

No.232

[2025.4]



Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —

TOPIC

横浜市主催「Borderなきeスポーツ」に参加して P. 6

巻頭言	P. 1
カナドラ！《県士会ニュース出張版》	P. 2
新生涯学習制度説明会開催のお知らせ	P. 3
生活行為向上マネジメント (MTDLP) 推進委員会からの お知らせ	P. 4
OT が知っておくべき制度情報コーナー (第 10 回目)	P. 4
理事会議事録	P. 5

協会主催「2024 年度教育領域への 作業療法士参画に向けた意見交換会」に参加して	P. 7
令和 5 年度地域支援活動助成金事業の実施報告	P. 7
各部からの報告	P. 8
事務局からのお願い	P. 9
編集後記	P. 9

巻頭言

神奈川県庁訪問 ～作業療法を語る～



一般社団法人神奈川県作業療法士会
会長 神保 武則

県士会ニュースをご覧の皆様、日頃より大変お世話になっております。そしてこの 4 月号が発行される時は、今年も新たに作業療法士となった方々が各職場において新たな門出を迎えていることと思います。心よりお祝い申し上げます。この時期になると、私も作業療法士になりたての頃をよく思い出します。作業療法士は楽しくやりがいのある職種です。諸先輩方とともに切磋琢磨しながら、対象となる方々の笑顔のために汗を流し、懸命に作業療法を提供してください。きっと、対象の方だけでなく同僚も周囲のスタッフも、みんなが笑顔で喜んでくれることと思います。培う努力は将来の大事な糧です。一緒に頑張りましょう。心より応援致します。

さて、作業療法はどの程度この日本社会に浸透しているのでしょうか。私も、新人時代から早 30 年が経とうとしますが、常に考えるテーマでもあります。作業療法は“リハビリテーション”という言葉で一括りにされがち…、そんな印象が未だに残っている気がするのは私だけでしょうか。作業療法の理念は、リハビリテーション概念の根底を支える極めて重要な存在です。どんな「ひと」でも、豊か

に「生きる」ためには、作業療法の啓発は大切になってきます。作業療法士であればこそ、その理念を伝えていく義務があると思います。私もその一人として、他職種や行政機関の方々に作業療法や作業療法士の役割等の説明をしたり、時には、政治家の方や地方議員さんとも対話の機会をもったりしています。少しでもいい。今よりも、もっと作業療法(士)の理解を深めて頂けるよう、これからも伝え続ける努力をしていきたいと思っています。

2025 年 1 月 29 日、神奈川県の中央行政機関である神奈川県庁を訪ねました。健康医療局の局長および副局長、保健医療部長、人材担当課長、人材課人材養成グループリーダーの方々と 1 時間以上の意見交換をする機会を頂きました。当士会から私を含め理事 7 名が健康医療局長室にて、作業療法の説明と作業療法士の役割やその価値を共有して参りました。私が伝えたのは、主に『作業療法士だからこそできること』『作業療法士でなければ適切な生活評価ができないこと』です。作業療法士は、「ひと」や「生活」の質を重視する医療専門職です。身体的にも精神的にも発達的にも「ひと」を包括的、且つ多角的な視座で、その「ひと」を捉え、適切な評価に基づき質の高いアウトカムが産み出される介入を致します。「ひと」がより健康的になれるように、そして充実感や幸福感も作り出せるように寄り添う医療専門職であることを伝えました。いわゆる、作業療法士は生活療法士であり、「生活」を細かく分析し評価できるエキスパートであることを。「ひと」は、連続した日々の営みを「生きる」力に変えようとしています。一人でなく支えあう仲間やコミュニティの環境にも重要な「生活」があります。「ひと」の暮らしは多様です。作業療法士は「ひと」を繋ぐ「環境」にも評価や介入をすることは大きな特徴で

す。さらに作業療法士は、教育的にも広く貢献していること。社会的にも医療や福祉、介護、復職等の側面においても、それらを支える職種であるということなどを熱く語ってまいりました。もしかしたら半端ない熱量だったかもしれませんが、当初予定していた1時間枠の意見交換を15分以上も超過するほど有意義な時間に発展し、健康医療局の皆様からは称賛と多くの理解を頂き、これからの作業療法士への期待を寄せる余韻を残し終了致しました。神奈川県としては、各県内地域の高齢化対策等の課題や未病に取り組んでおります。将来の神奈川県民のあるべき「生活」評価や適切な教育、介入等に向け、作業療法士とともに次のステップを考えていくことに賛同して頂きました。具体的なアクションプランはまだまだ先になりますが、我々が示すべく作業療法の効果的介入を期待して下さる中央行政の

方々のご理解は、実に大きな一歩だったと思います。これは、リハビリテーションという一括りの言葉から、少しずつ衣を剥がし作業療法という理念の提供ができた瞬間にも思えました。実に素晴らしいことです。

神奈川県内に限らず、「生活」が存在する各地域社会に向け、我々作業療法士たちは作業療法を発信し続けることが肝要だと思います。また要求が高まってくると思います。当士会は、地域に暮らす「ひと」が多様な質を求めてくる限り、多くの選択肢を揃えられるよう、皆様の知恵と技能と発想力をどんどん取り上げていきます。

さあ、会員の皆さん。作業療法士の皆さん。知恵と技能と発想力をください。作業療法で地域を活性化していきましょう！！中央行政機関も作業療法の社会的浸透を求めています！！是非宜しくお願い致します！！

カナドラ！《県士会ニュース出張版》

～ 免許センターへの情報提供について～



神奈川県の自動車運転に関するアンケートはこちら



ブログ版カナドラはこちら

制度対策部自動車運転班 渡辺 謙斗

制度対策部自動車運転班のブログ「カナドラ！」(上記QRコードよりブログチェックをお願いします！)の県士会ニュース出張版第16回となりました。今回は、当班が先日神奈川県警察運転免許センターにて「医療機関からの評価申し送り」に関する協議をした内容の一部をお伝えさせていただきたいと思ひます。

自動車運転再開のために運転免許センターにて適性検査または臨時適性検査を受ける際に、医療機関ごとに医師が記載する警察指定様式の診断書「神奈川県公安委員会提出用診断書(以下、「診断書」)」を作成しているかと思ひます。その際に診断書に加えて、作業療法士が評価した運転能力評価の結果(机上検査やドライブシミュレーターの結果そのものや、それらをまとめた用紙)を添付している場合もあると思ひます。医療機関によってもその対応が異なり、当班で実施している勉強会の質問や意見の中にも「統一した書式があると良いのではないか」「どう申し送ったらよいか」といったものがよく挙げられます。運転免許センターの運転教育課の方からの勉強会では、「医師が作成した診断書以外は原則として受け取ることはできない」と回答されており、添付資料に関してはご本人に返却されます。

ただし、というところでここが今回お伝えしたい部分です。

診断書を作成する際に下記内容のようにする事で、運転免許センターの方にリハビリが伝えたい内容も申し送りできる形となります。

①令和6年4月に改定された際に「診断書」の総合所見欄が拡大されたため、運転能力評価の結果をふまえた医師の所見を総合所見欄にまとめて記載する。

その中にリハビリ職からの申し送りを盛り込みつつ、参考にした検査結果(机上検査の結果やドライブシミュレーターの結果として出力される用紙等)を文中に「別紙参照」の記載の上で当該用紙を添付する。

②もしくは、枠は小さいが裏面下部の「その他特記すべき事項」に記載。

基本的にはすでに評価した内容を医師に伝え、その内容を踏まえて診断書を作成していると思ひます。しかし医師が参考とした資料を「別紙参照」として記載し添付することで結果用紙等の扱いが変わってくるとのことでしたので、是非運転免許センターに評価結果を伝える方法として参考にしていただければと思ひます。

自動車運転班では、引き続き免許センターや教習所協会等の方々との連携を図っていき、皆様に情報発信できればと思ひます。自動車運転に関わることや共有事項があれば県士会自動車運転班宛にお気軽にご連絡ください！

今年度も自動車運転班は、研修会・ブログ等での情報発信を行いますのでよろしくお祈り致します！！

新生涯学習制度説明会開催のお知らせ

令和7年度より、日本作業療法士協会の生涯教育制度が新生涯学習制度に改定され、基礎研修のカリキュラムが大きく変更されます。

これに伴い、新卒者および現職者向けに新生涯学習制度説明会を開催します。

神奈川県士会の取り組み、制度の概要や改正点、登録作業療法士の新設などについて詳しく解説し、意見交換や質疑応答の時間も設けます。

新卒者向けは無料、現職者向けは基礎ポイントが付与される有料開催です。オンラインでの開催となりますので、ぜひご参加ください！

(一社) 神奈川県作業療法士会
教育部・福利部 主催

新生涯学修制度 説明会

新卒者
対象

2025年
5/10 10:00-12:00 (土)
5/20 19:00-21:00 (火)
オンライン開催



参加費 無料 キャリア 支援 相談 コーナー

内容

- ・ 神奈川県作業療法士会は作業療法士にとってどのような意義を持つか
- ・ 神奈川県作業療法士会の取り組みと教育プログラム
- ・ 日本作業療法士協会の教育プログラムの目的と内容

詳細・お申し込みはQRコードにアクセス！

(一社) 神奈川県作業療法士会 教育部・神保洋平 福利部・山野健太郎
e-mail:y.jimbo.crcotrあつとまーく@gmail.com (あつとまーくを@にかえて)



(一社) 神奈川県作業療法士会
教育部・福利部 主催

新生涯学修制度 説明会

現職者
対象

2025年
4/19 10:00-12:00 (土)
4/22 19:00-21:00 (火)
オンライン開催



参加費 500円 キャリア デザイン 意見交換

新生涯学修制度は

- ・ 我々作業療法士が、社会に向けて責任を果たすために必要であり
- ・ 診療報酬改定に向けて業界団体として必要なこと
- ・ ひいては我々一人一人の処遇改善に必要なことです。上記を踏まえ、説明会および意見交換会を実施いたします。

詳細・お申し込みはQRコードにアクセス！

(一社) 神奈川県作業療法士会 教育部・神保洋平 福利部・山野健太郎
e-mail:y.jimbo.crcotrあつとまーく@gmail.com (あつとまーくを@にかえて)



〈新卒者用〉

こちらにアクセス
してください

5月10日
<https://peatix.com/event/4312650>
5月20日
<https://peatix.com/event/4312729>

〈現職者用〉

こちらにアクセス
してください

4月19日
<https://peatix.com/event/4311768>
4月22日
<https://peatix.com/event/4312639>



連載

生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進委員会からのお知らせ ～ MTDLPいち推し～

MTDLPは、よりよい作業療法実践を目指す一つの手段です！

MTDLP 推進委員会 奥原 孝幸

皆様、新年度になりました。心機一転の機会ですね。

この時期は、初々しい顔、イキイキとやる気に満ちた顔、戸惑いや不安気な顔など、いろんな顔が見れますね。

実は、県士会も今年度心機一転の年です。このMTDLPの推進を担当する理事も変更となるかも知れません。旧理事である私が書くこの「いち推し」は最後となるかもしれませんし、MTDLP 推進に向けた活動の一区切りとなると考えていますので、感謝を込めて書きます。

研修会の参加者数でみると、MTDLP 基礎研修は対面開催に戻し2回開催、57人の参加者、事例検討会は日曜日昼間3回と平日夜1回の計4回の開催、報告者18人、聴講者14人の計32人の参加でした。少ないように思うかもしれませんが、全国でもトップだと自負しています。

事例検討会は、参加者数の割には事前添削（神奈川県会

自）や当日の報告と検討等、多くの講師を要します。そのため理事としては参加者数の割に経費がかかり費用対効果の言葉を何度も聞きながら、必要性和予算の間で揺れ続けましたが、この数を改めてみると予算を割いていただき、県士会員のための活動ができたのではないかと考えています。

今後は基礎研修を開催しながら、事例検討会を通して事例報告登録審査に合格でき、MTDLP 指導者を増やしていくことがMTDLP の推進をさらに進めることになります。皆さん、ぜひともMTDLP 指導者を目指していただければと思います。

最後に、MTDLP は作業療法のよりよい実践につながる一つのツールです。いくつか使用するシートのつながりである臨床思考過程を知っておくだけでも臨床に役立つと思いますし、このツールに魅了されるのも一つですよ。

OTが知っておくべき制度情報コーナー 第10回目

ご存じですか？ 障害者雇用の除外率の引き下げ(2025年4月1日施行)

制度対策部 社会保障制度班 担当理事 澤口 勇

県士会会員の皆さん、こんにちわ。制度対策部です。

本コーナーでは「作業療法士が関わる諸制度（法律）」について、実際に皆様の臨床現場で知っておいて欲しい、お役に立つ法令などの情報提供に努めております。

今回は令和7年4月1日から施行される「障害者雇用の除外率の引き下げ」（障害者雇用促進法の改正）に関する情報をご紹介します。

事業主の皆さんには、障害に関係なく、希望や能力に応じて、誰もが職業を通じた社会参加のできる「共生社会」実現の理念の下、全ての事業主に、法定雇用率以上の割合で障害者を雇用する義務があります。作業療法士の皆様はご存じでしょうか？

そのことを持って作業療法士の皆様は日々、今あるいは将来働く希望を持つ障害者の皆さんに接しておりますか？

令和7年4月1日より、各業種で定められている障害者の雇用除外率がそれぞれ10%引き下げられます。除外率が設定されている業種は様々ありますが、貨物運送取扱業で5%、建設業で10%、港湾運送業で15%、鉄道・医療業で20%、林業で25%、金属鉱業や児童福祉事業で30%、特別支援学校で35%、石炭・亜炭鉱業で40%、道路旅客運送業や小学校で45%、幼稚園や認定こども園で50%、船員等による船舶運航等の事業で70%となっています。これはつまり、身体等の障害の程度により就業上、安全面で懸念がある場合などが考慮され、設定されています。しかしノーマライゼーションの理念から申します

と、障害を理由に雇用（採用）に差を設けること自体、不平等ではないかという議論です。社会の方で、障害者が社会の一員として平等に働ける環境を整えれば良いのです。事業主は、障害者が働きやすい環境を整えるために、合理的な配慮を提供する義務があります（障害者差別解消法：令和6年4月1日改正：事業主による合理的配慮の提供義務化）。例えば、職場のバリアフリー化や、障害者のニーズに応じた柔軟な勤務形態の導入などが含まれます。

それらも相まって、平成14年の障害者雇用促進法の改正により、徐々に除外率制度の段階的な廃止が示されています。また、労働政策審議会の意見書や障害者施策推進本部の「重点施策実施5か年計画」においても、除外率の引き下げと廃止の方向性が明記されています。

令和8年7月には法定雇用率も、現在の2.5%から2.7%に引き上げられます。除外率の引き下げ並びに廃止の方向性や法定雇用率の上昇など、その他様々な支援策による効果で障害者の雇用率は年々上がってきましたが、法定雇用率を達成している企業のほとんどは大手企業であり、日本の企業総数の99.7%を占める中小企業（2024中小企業白書）のうち、57.6%の中小企業においてはまだ障害者を一人も雇用できておらず、法定雇用率が未達成です。

障害者が働きやすい環境を事業主に提案する、その積み重ねで障害者が働きやすく住みやすい社会に変えていくことも、私たち作業療法士の大事な仕事ではないでしょうか？

理事会議事録

★ 2024 年度 第 6 回理事会 議事録 2024.12.13

日 時：2024 年 12 月 13 日（金） 19:00～21:10

開催方式：対面開催

場 所：神奈川県横浜市中区真砂町 3-33

商業ビル「セルテ」10 階 102 会議室

出席理事：神保武則（会長）、田中ゆかり（副会長）、吉本雅一（副会長）、玖島弘規（事務局長）、望月強併、奥原孝幸、野本義則、澤口勇、遠藤陵晃、青木啓一郎、佐々木秀一、神田崇央、神保洋平、金山桂、佐藤隼、佐藤範明

出席監事：錠内広之

欠席理事：山勢健太郎

欠席監事：野々垣睦美

I. 会長より挨拶

先日は、臨床大会お疲れさまでした。大変盛況で今後大会長の木村先生からご報告頂けるかと思えます。本日も多くの議題がありますのでよろしくお願いします。

II. トピックス

オレンジイノベーションプロジェクト（経産省事業）への参画パートナー団体募集について

神奈川県庁井上様、日本総研高橋様よりご説明頂いた。経産省と連携し、認知症当事者と商品・サービスを開発する企業が対話しながらより良い製品開発を行うもの。

①認知症当事者のニーズと②企業側の認知症当事者が使いやすい製品の開発・改善という両軸があり、この取組に参画する認知症当事者の募集等にご協力いただくパートナー団体として、神奈川県作業療法士会様にもご参画いただけないか。

未病の概念から様々な事業を実施している。政策としてヘルスケア産業も取り組んでいる。事務局として日本総研が担っている。神奈川県の高齢福祉課も参画している。神奈川県作業療法士会もパートナー団体として参加して頂きたい。

（錠内監事）

OT 士会として当事業にどのような参画が出来るか？

→ネットワーク作りや認知症の方と一緒に参画して頂き、認知症の方の支援に携わって頂きたい。

III. 審議事項

1. 後援依頼について（事務局）

・第 22 回神奈川県介護支援専門員研修大会への後援依頼

→賛成多数で承認

2. 部員申請について（学樹部・学会評議委員会）

→賛成多数で承認

3. 永年会員申請書の変更について（事務局）

→賛成多数で承認

4. 補正予算の申請について（MTDLP 推進委員会）

（奥原理事）

補正予算申請書の内容を説明。参加者の増加から演習の時間が長く、講師謝金の増加が必要。また事例検討会の謝金・会議費の増加が予想される。

→賛成多数で承認

IV. 2025 年度事業計画予算案プレゼンテーション

各部署より事業計画及び予算案について説明。1 月に再度事業計画・予算案の検討を行う。再度各部署において予算案の見直しと調整をお願いしたい。可能であれば 2023 年度の修正の決算額まで抑えたい。新規事業や業務変更は適宜調整していく。

V. 報告事項（各部署・理事・三役）

1. エリア化推進委員会

(1) 令和 5 年度地域支援活動助成金事業について

県士会として助成金を支給しているため、チラシやポスター等に後援等を入れるように依頼しても良いのではないかと。今後ルール等も検討していく。

2. 組織改編について（神保会長）

現在はプレ期間であり、3 月までに組織図を確定し総会資料を作成していく。2025 年の総会で決定していく。決定以降は新組織図で運用。総会までは前組織図での運用となるため、会計処理には注意が必要。

3. 4 か年計画について（神保会長）

4 か年計画の振り返りを作成。2023-2024 年度の振り返りを実績として資料を作成していく。

【その他報告部署・理事】

（青木理事）

臨床大会参加総数 144 名。内訳として、県士会員 110 名、非会員 28 名（詳細不明）、学生 5 名、PT1 名。次回理事会で木村大会長から総括を頂き、次回大会長の小砂大会長も参加予定。

（金山理事）

臨床大会県士会ブースを設置し、2 名の非会員に入会案内が出来た。

VI. 監事より

以前は企画調整委員会があり、現在は三役がその役割を担っている。業務の進行度をフィードバックし、最終的に事業の遂行度を各部に伝えていた。各部署に対しての業務評価が必要であり、評価がなければ議論にならない。業務量の評価をしたうえでの予算付けの検討が必要となる。

以上（事務局長 玖島 弘規）

横浜市主催「Borderなきeスポーツ」に参加して

(主催) 横浜市政策経営局 (共催) 株式会社ディー・エヌ・エー

2024年11月3日、横浜市役所アトリウムにて「Borderなきeスポーツ」イベントが開催されました。当日応援スタッフとして県士会からは、地域リハ部の部員2名と遠藤理事、合わせて視線入力をはじめとするICT機器の支援に従事したことがあるOT4名とで参加させていただきました。また岩崎学園の教職員OT2名と作業療法学部の生徒さんも参加されました。横浜市に限らず近隣の多くの方が当日参加され、とても賑やかなイベントとなりました。

今回はイベント企画として、横浜市内の特別支援学校に通われている生徒さんが「視線入力でeスポーツ選手と対戦！EyeMoT大会」に参加され、我々スタッフはそのeスポーツ（視線入力装置）の設定とアテンドにも携わらせていただきました。



今回は会員の皆様へeスポーツについて、合わせて今回のイベントで使用したデバイス機器についてご紹介いたします。

【eスポーツとは】

川崎市中部リハビリテーションセンター 濱口

eスポーツとは、エレクトロニック・スポーツ (Electronic Sports) の略で、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦型ゲームを指します。インターネットなどネットワークで「つながること」で、障害の有無や年齢、距離や言語などさまざまな垣根を超えて、みんなが楽しめる新しい「参加」の形です。eスポーツを楽しむための制限の解消に、作業療法士の専門性を活かした助言が必要になることがあります。個々に合ったゲーム種、姿勢、操作方法から、コントローラーやスイッチなどの選定を含む環境支援が重要となるためです。

【任天堂 Switch 用 Flex Controller】

医療福祉センター港南 加藤

Flex Controller (フレックス・コントローラー) は、「誰もがゲームを楽しめる世界を目指す」という想いから、筋ジストロフィーや脳性麻痺など、肢体不自由を抱える方々の声をもとに開発された特別なコントローラーです。外部スイッチやUSB接続のジョイスティックを利用することで、多様な操作方法に対応

し、パソコンを介して視線入力装置を活用すれば、目の動きだけでゲームを操作することも可能です。



今回のイベントでは、任天堂 Switch の「スイカゲーム」や「太鼓の達人」の体験ブースにて参加者が使えるように設置されていました。シンプルなゲームであれば1つのボタンだけでもゲームを楽しむことができ、対象児・者に適合した外部入力装置と組み合わせることで、重度の障害がある方からまさに“誰でも参加できる”を実現するデバイス機器です。

【PlayStation5 Access コントローラー】

難病班 村田

PlayStation5 Access コントローラーは、プレイヤーの多様なニーズに合わせてカスタマイズできるアクセシビリティコントローラーキットです (PlayStation 公式サイトより引用)。コントローラー本体は、円盤のコントローラーで机の上や車イスに設置すると安定して使用できます。設定を調整し、×や○、L1 ボタンなどを円形状に自由に配置することができます。またスティックの形状も変えられるそうです。



イベントでは、ストリートファイターを操作する際に、ジェリービーンスイッチやホップタッチスイッチを接続し、×ボタンや○ボタンを割り当て、左右への移動や技を接続したスイッチで操作し、ゲームを楽しみました。

<https://www.playstation.com/ja-jp/accessories/ccess-controller/>

【編集後記】

今回のイベントでは地域の高齢者と小学生が太鼓の達人で対決する企画もあり、非常に盛り上がりました。また高齢者の通いの場やデイサービス間で太鼓の達人を繋いで大会をするなどの取り組みがなされるなど、今やコンピューターゲームは子どもだけのものではなく、全世代の人と人をつなぐアイテムとなっています。また視線入力装置をはじめ、今回紹介したアクセスコントローラーを使用することで、さまざまな人がゲームやパソコンの操作を可能になります。作業療法士として日々進化するICT支援についても情報をアップデートしていきましょう。

(文責：地域リハビリテーション部こども班 戸塚 香代子)

協会主催「2024年度教育領域への 作業療法士参画に向けた意見交換会」に参加して

2025年1月21日に、日本作業療法士協会制度対策部により「2024年度教育領域への作業療法士参画に向けた意見交換会」2回目がオンラインにて開催されました。今回の研修は、①特別支援教育領域における最近の動向、②OT協会のこれまでの取り組み、③作業療法士の特別支援教育領域への参画状況、④学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会の紹介、⑤質疑応答の内容でした。質疑応答での活発な意見交換が印象的で、近年の特別支援教育領域への関心の高さが伺えます。日本作業療法士協会では、「学校を理解して支援できる作業療法士育成研修会」などの人材育成と並行して、教育領域への参画を推進する方策を検討しています。現在の特別支援教育領域に関わる様々な情報を共有することにより、各自が学校や教育現場のイメージを膨らませ、参画する後押しとなるような研修会でした。近年は、特別支援学校等の児童生徒の増加（特別支援教育を受ける児童生徒数：平成25年度3.1%→令和5年度7.0%）、公立特別支援学校における教室不足の問題がクローズアップされました。また、令和5年度の特別支援教育体制整備状況

調査結果や、通級による指導実施状況調査から、通級による指導を受けている児童生徒数の増加の一方で、小学校で70.6%、中学校で75.4%の校長が特別支援教育に携わる経験がないという結果が明らかになりました。学校の方針を検討していく先生方の、特別支援教育への理解と専門性の向上も課題になると考えられます。

詳しくはこちらをご覧ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1402845_00013.htm

また、協会の取り組みとして、調査や実践をまとめながら、今年度より情報共有の機会を一般公開することで、より一層人材育成に力を入れていきます。現状神奈川県内においても、多くの作業療法士が学校をはじめとする“地域”における子どもの支援にご尽力されているかと思えます。地域リハ部こども班では、引き続き研修会や、発達に関するイベントを企画、発信していきますので、少しでもご興味ありましたらお気軽にご参加ください。

(文責：地域リハ部こども班 庄司 薫)

令和5年度地域支援活動助成金事業の実施報告

会員同士による地域活動の後押しを目的とした「地域支援活動助成金事業」ですが、令和5年度採択事業が今年度実施されました！実施報告が届きましたのでご報告させていただきます。

事業テーマ：「WheelLog! in 小田原」

車椅子街歩きイベント

開催日時：令和6年9月7日

団体名：車いす街歩き実行委員会

代表者：初鹿 真樹

【実施報告】（報告者：初鹿）

小田原では2018年4月にバリアフリーマップアプリ「WheelLog!」を活用した街歩きイベントを実施し、その際に取得したバリアフリー情報をもとに「小田原バリアフリーマップ」を作成しました。コロナ禍によりこの活動は一時停滞していましたが、今回、県西エリアを中心に活動している作業療法士5名が中心となり『車いす街歩き実行委員』を結成、神奈川県作業療法士会の『地域支援活動助成金事業』を活用し、イベントを開催することができました。

イベント会場には医療・介護職を中心に約40名が集合。特に今回は国際医療福祉大学小田原保健医療学

部の協力を得て、多くの学生さんが参加し、車椅子ユーザーにおすすめの観光ルートを調査するチームが編成されました。小田原城を中心に観光ルート情報や立ち寄った店舗などをアプリに投稿。今後、これらの情報をもとに紙のマップとして発行する予定です。



その他の参加者は5～6人のグループに分かれ、それぞれが選んだ「ミッション（お題）」をもとに街へ繰り出しました。「早川港にいるズゴックと写真撮影をせよ」「うめ丸号に乗って『TOTOCO 小田原』へ行き、アジの干物オブジェと写真を撮れ」など、ご当地色の強いミッションが出題されます。その過程では車椅子ユーザーを阻むさまざまなバリアが立ちはだ

かりますが、チームで協力しながらクリアしていくことで、会場に戻る頃にはみんなが笑顔になっている、そんなイベントです。

福祉イベントというと、どこか真面目なイメージを持たれるかもしれません。しかし、WheeLog! 街歩きイベントは「いかに楽しみながら社会課題に向き合うことができるか？」を大切にしています。我々作業療法士も、養成課程で車椅子に乗る体験はするかと思いますが、車椅子ユーザーと一緒に、自分も車椅子に乗って街を歩き、ランチをする体験はなかなかできないのではないのでしょうか？車椅子ユーザーの社会参加を考えるうえで、まずは自らが体験し、感じる事が非常に重要な気づきをもたらします。

特に今回は、国際医療福祉大学 小田原保健医療学部から参加した学生たちから、「学内では学ぶことのできない貴重な体験ができた」「社会参加の意義や地域リハビリテーションについて考えるきっかけになった」といった声が寄せられました。

養成校における座学や実技、各種実習に加え、学生時代から多様な社会人と触れ合い、地域や社会を知ることが、その後の作業療法士としての在り方に大きな影響を与えると考えます。

後進の育成のためにも、地域支援活動助成金事業を活用しながら地域での体験の場を提供し、実際に地域で活動する作業療法士の姿に触れる機会が増えていくと嬉しいです。

※バリアフリーマップアプリ「WheeLog!」とは？

このアプリは、車椅子ユーザーやベビーカー利用者が移動しやすいルートやバリアフリー情報を共有できるプラットフォームです。ユーザーが実際に移動したルートを記録し、段差やスロープの有無、多目的トイレの位置などを共有することができます。2017年5月にリリースされ、2025年1月時点でユーザー登録者数は36,307人。国内外で数々の賞を受賞しているアプリです。 (文責：大郷 和成)

各部からの報告

▶地域リハビリテーション部 地域ミーティング～回復期での地域支援事業について語る～

(文責：地域リハ部地域支援事業班 赤羽 竜馬)

2024年12月16日19時30分より地域ミーティングがオンラインにて実施され、約30名もの方に参加していただきました。今回は「回復期での地域支援事業について語る」というテーマで、地域リハビリテーション部所属の札幌野先生のファシリテーターの元、講義とグループディスカッションの2本立ての内容となりました。

講義は2024年度からの診療報酬改定にあたって、回復期リハビリテーション病棟基準に、地域貢献活動に携わることが望ましいと明記されたことについて説明がありました。また、病院機能評価では地域に向けて医療に関する活動を行っているなど、一定の水準を満たした場合に安全安心、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力している病院とされる認定病院の評価を受けることができるという説明がありました。

地域貢献活動が望ましいとされていますが、具体的な明記が無い為、今回のミーティングでは病院全体や作業療法士として個人的に地域に貢献している物事などを、回復期のみならず急性期等も携わっている先生方と話し合いました。

地域に貢献するといってもどのように関わっていくか、どのように動き始めればよいかかわからないことも多いと思われる。グループディスカッションで病院全体として健康診断や職場体験などを、作業療法士としては健康体操などの身体を動かすきっかけになるような行事や、運転評価を行う為にシミュレーターがある他市施設との提携などと、人や様々な施設と関わっていることなどの意見がありました。また病院内だけでなく、地域の特色や変化などを把握するために、政治関連の情報を収集している方もありました。

現在、後期高齢化社会で閉鎖的な環境が多くなってきていることに対して人としての生きがいで、いかに健康的で楽しい生活を送るかが大事かと思えます。そこで病院や作業療法士として、人や地域との関りの他、活動の場を提供する事などに関わっていく必要があるのだと感じました。

今回のグループディスカッションで県内外からの参加者による意見交換で、地域との関りとしてこれからの行動指針や活動に対しての悩みなどを話し合い、充実した時間を過ごすことができた素晴らしいミーティングとなりました。



▶ウェブサイト管理委員会 県士会サイトスペシャルコンテンツ紹介

(文責:ウェブサイト管理委員会 佐藤 範明)

県士会サイトでは様々なコンテンツが存在していますが、そんな中でも「スペシャルコンテンツ」が複数あります。今回はその内1つの【ウェブ管的知恵袋】を紹介します。本コンテンツは、リハビリテーションに関連するニュースのまとめ・リハビリテーションに関連する学会・研修会情報を掲載しています。

日々仕事で忙しい中でリハビリに関連するニュースや学会関連を調べるのは意外と労力が必要なお仕事だと思います。本コンテンツを覗くことで、ニュースや学会など一目で確認できますので、定期的に確認いただくとお役に立てると思います。

ぜひ一度閲覧してみてください。

図)【ウェブ管的知恵袋】スペシャルコンテンツ閲覧方法(スマホ Ver.)



事務局からのお願い

●届出内容を変更される方

住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『登録内容の変更届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール (kaian@kana-ot.jp) にてご提出願います。(随時受付)

編集後記

4月となり、いよいよ新生涯学修制度が開始されます。大きな変更ですので、新制度に慣れないうちは職場内で情報共有するなど混乱しない工夫が必要そうですね。神奈川県士会では説明会を4月に2回予定していますのでぜひ活用してみてください(※詳細は県士会ホームページでご確認ください)。皆さんと一緒に新制度を盛り上げていきましょう。(まつ)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース (232号) 2025年4月発行(年4回発行)

発行責任者 神保 武則

編集責任者 金山 桂

編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)

山岡 洸(湘南慶育病院) / 佐藤 愛(悠の木株式会社) / 丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院)
松井 洋鷹(浏野辺総合病院) / 碓屋 瑛理(佐藤病院)

印刷 発送 株式会社高陽印刷所

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301 号

TEL/FAX : 045-663-5997

月火水木金 10:00~15:00

メールアドレス : jimuj@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト

<https://kana-ot.jp> → 作業療法 神奈川県 検索

Facebook

<https://www.facebook.com/kaotwebkan>

X

<https://twitter.com/kaotwebkan>

